

## II 領域別超音波検査・診断のトピックス

# 7. POCUSのトピックス —トレンドの移り変わり

植村 和平 島根大学附属病院総合診療医センター

### POCUSの景色が 変わっている

point-of-care ultrasound (POCUS) という言葉を聞いて、読者の方は何を思い浮かべるだろうか。救急外来での focused assessment with sonography for trauma (FAST) や、focused cardiac ultrasound (FoCUS) によるショック時の心機能評価だろうか。もしそうなら、そのイメージを少しだけアップデートする必要があるかもしれない。

かつてPOCUSは、生死を分ける信号機のような存在であった。しかし今、デバイスの小型化と高画質化により、その役割は劇的に広がっている。X線では見えない軟部組織を見る「運動器エコー」、看護師の手技を可視化しケアの質を上げる「排泄エコー」、そして、在宅療養を継続できるかを判断する「訪問診療で

のポケットエコー」などである。

今やPOCUSは、「死なせないための技術」から、「より良く生きるための技術」へと進化を遂げている。特に、高齢化が進む日本で、整形外科医不在の地域を支えるカギとなるのが運動器POCUSである。本稿では、最新のデータや学生教育の熱狂、そして、総合診療医である筆者自身が北海道のへき地・離島で経験した事例を通じ、POCUSがもたらす医療のパラダイムシフトについて紹介したい。

### 【データで見る】救命から 生活の質 (QOL) へ ～論文数が語る変遷～

#### 1. 世界的に見る変遷

POCUSが普及したという実感は、客観的な数字にも表れている。PubMed

で、特に運動器POCUSに関する新規の論文数を調べると、2013年頃から右肩上がりに増え、2020年を境に爆発的な急増を見せている(図1)。

2026年2月1日に、PubMedにて図1のワードで検索された360件の文献分析を行った結果、3つの大きな波が見えてきた。

#### 1) 第1波：形態診断 (2009年～)

主役となるキーワードはfracture (骨折) と dislocation (脱臼) である。X線の代わりにエコーで骨折がわかるか？ という診断精度の検証が目的であり、これは現在でも運動器POCUSの基礎として揺るぎない地位を占めている。

#### 2) 第2波：教育の急増 (2016年頃～)

2007年にはeducation関連が出現しているが、実際には2016年頃から medical student, curriculum といった単語を含む論文が爆発的に増えている。コロナ禍による実習制限やワイヤレスの

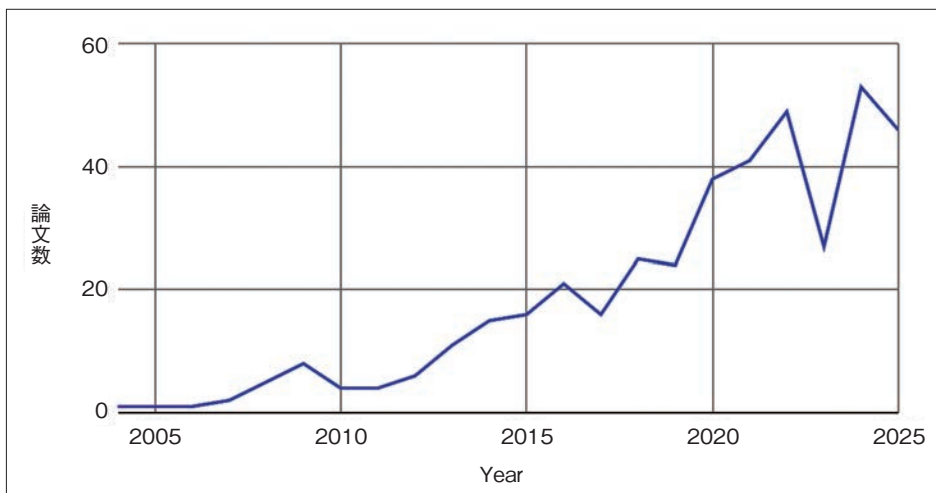


図1 運動器POCUSにかかわる論文 (PubMed検索)

検索クエリ: ("Point-of-Care Ultrasound" [Mesh] OR POCUS[Title/Abstract] OR "Point of Care Ultrasound" [Title/Abstract] OR "Bedside Ultrasound"[Title/Abstract]) AND ("Musculoskeletal Diseases" [Mesh] OR "Orthopedics" [Mesh] OR Musculoskeletal[Title/Abstract] OR Orthopedic\*[Title/Abstract])